青春スクロール

母校群像記

saitama@asahi.com

市立浦和高校 1

公立も夢舞台に上がれる

「市高」の名で知られるさいたま市立浦和高校は、1940年開校の浦和市立高等女学校を前身に、戦後、浦和市立高校と統合し、誕生した。2007年に中高一貫校になり屈指の進学校となって、「文武両道」を高いレベルで実践する。創立80周年を迎え、卒業生は約2万8500人。サッカーや芸術分野など各界で活躍するOBらの青春の日々を追った。

□　□

昭和最後　甲子園に「さわやか旋風」

32年前、高校野球史に深く刻み込まれた活躍がある。昭和最後となった1988年の夏の甲子園大会。野球部は強豪や常連校を撃破してベスト4に躍り出て、「さわやか旋風」を巻き起こした。初出場の公立校の驚きの快進撃に、日本中が沸いた。埼玉大会もノーシード、チーム打率は甲子園出場校の中で最低だった。なぜ勝ち続けることができたのか。

主戦投手だったさいたま市広報課長の星野豊（49、89年卒）は、勝ち上がった理由に「無欲」を上げる。「甲子園なんて目標にすらならなかった。出場を決めても自分たちでいいのかと戸惑ってしまった」。夢のまた夢の甲子園初勝利。校歌斉唱で整列する時も勝手が分からず、ホームベース付近をうろうろ。審判から「きれいに並べ」「動くんじゃないぞ」と怒鳴られたことも。「負けて当然。だから自然体で力を出し切れた」

「マスターズ甲子園2019」に市浦和OBチームの一員として初出場した星野。31年ぶりに甲子園のマウンドに立った

母校サッカー部が2008年、選手権出場を決めた試合でも地元テレビマンとして中継ディレクターを務めた鬼塚

市高の正門

遊撃手だったテレビ埼玉スポーツ局長の鬼塚信次（50、89年卒）は「対戦相手の油断」こそが勝因につながったとみる。「試合前の整列から、明らかに体がでかい相手選手たちは余裕たっぷり。俺たちなめられているな、と感じた」。2回戦で下した常総学院の当時2年だった仁志敏久（元巨人など）が後に「普通にやっていれば勝てた」と悔しがったと耳にした。

「力勝負だったら歯が立たない相手ばかり。うちに先行されて『こんなはずじゃない』と焦って力を出せなかったのだろう」

主将で左翼手だった庄和高教諭で野球部顧問の**隻手克尚**（50、89年卒）もチームの奮闘を「神がかりだった」と振り返る一方で、「勝てる要素も確かにあった」と分析する。そこで上げたのが当時36歳の青年監督だった**中村三四**（68）＝越谷南高非常勤教諭＝の存在だ。チームは積極的に遠征に出向き、県外の強豪校との対戦を組んだ。「試合に負けても、ユニホーム負けしない、物おじしないチームになっていった」

甲子園で忘れられない采配がある。準々決勝の宇部商戦、3―3で迎えた十回裏1死二、三塁の一打サヨナラのピンチ。誰もが満塁策だと疑わなかった場面で、監督は伝令を飛ばし、真っ向勝負を指示する。「星野が勝負に出ると球場がどよめき、体に震えが走った」と隻手。「ここ一番では逃げない強気の采配は、波に乗るチームの気分とマッチしていた」

高校野球の指導者となった隻手。ベンチから左翼まで8・9秒の「隻手ダッシュ」は甲子園で脚光を浴びた

中村本人は、甲子園出場を決めても全国大会常連のサッカー部と比較され、周囲の期待は薄かったことを覚えている。「甲子園で勝てるわけがない」と高校に電話をかけてくる人もいた。十分な練習を積んだ自負があった中村はしかし、「1勝はできる手応えがあった」と明かす。星野に内角攻めを徹底させるために自ら剣道の小手をつけてブルペンの打席に立った。進学校ならではの頭脳野球にも力を注いだ。毎週水曜6限の必修クラブの時間は、部員を集め、相手を出し抜くピックオフプレーの反復練習に時間を割いた。このトリックプレーが、甲子園で何度もピンチを救い、試合の流れを変えることにもなった。

4人が後輩に向けて同じように口にした言葉がある。「同じ高校生、公立校が夢の舞台に駆け上がるチャンスは必ずある」

作詞家の阿久悠（故人）は、初戦の佐賀商に勝ったナインをたたえ、「普通であること」という詩をスポーツ紙に書いた。その後の快進撃を予見する内容だった。

何故負けないのか／何故勝つのか／もしかしたら／何故という種明かしを／甲子園の場で／きみら／浦和市立はしつづけるのかもしれない（「甲子園の詩」から）

＝敬称略

高校野球監督生活のうち浦和市立、市浦和で27年を過ごした中村。定年後も越谷南高で指導をしている

「青春スクロール　母校群像記　さいたま市立浦和高校」は、原則、第2埼玉面で土曜日に掲載します。

慶大生のホーム 思い出は永遠に

東京・三田「つるの屋」再開中止

移転前のつるの屋。色あせた手書きのメニューやタペストリーなどが飾られていた

慶応大学三田キャンパス（東京都港区）のそばにあり、半世紀にわたって慶大生に愛された飲食店が、昨年末に閉店した。お金のない学生にもご飯を食べさせ、終電を逃した学生のために始発の時間まで店を開けた。卒業後も通い続けた人も多い。

この店は大衆割烹（かっぽう）「つるの屋」。1969年の創業。150人ほどが入れる広さで、慶大生がゼミやサークル帰りなどに集った。店内には、壁いっぱいに慶大のタペストリーが飾られ、レジ近くの壁には卒業生らの名刺がぎっしりと貼られていた。

学生たちに「お父さん」と慕われたのが、2代目店主の故・渡辺孝さん。約20年前に脱サラし、両親が始めた店を受け継いだ。「学生たちの『ホーム』のような場所であってほしい」。そう語っていた渡辺さんは、学生の横に座って声をかけ、相談にも乗った。値段はほとんどが数百円と手頃で、メニューにない料理も頼まれれば提供した。看板メニューは「豚こがね」。豚ロースの唐揚げに甘酢がかかった料理で、常連客が頼む人気メニューだった。渡辺さんと親交のあった東邦シャーリング社長付の山岸泰幸さん(28)は「店に行けば仲間に会える。OB・OGとのハブの役割も担っていた」と話す。自身も、学生時代は週2、3回通ったという。

「つるの屋」店主の故・渡辺孝さん＝いずれも山岸泰幸さん提供

同店は昨年末、ビルの建て替え工事に伴って閉店した。近くのビルに移転し、今年4月に再スタートを切る予定だったが、コロナ禍で延期に。そして、渡辺さんは体調を崩し、6月上旬に亡くなった。新店舗の改装工事はほぼ終わっていたが、リニューアルオープンの話は中止になった。孝さんの叔母の加藤桂子さん(84)は「前の店を思い出せるような店にしようと亡くなる直前まで準備していた。残念です」と話した。（野田枝里子）

■市町村別などの感染者数

（3日現在。県発表から。合計は再陽性者含む延べ人数。カッコ内は前日比。その他は調査中など。重症は入院中の内数）

自治体など	人数	
さいたま市	701	(+6)
川越市	156	(+2)
熊谷市	37	
川口市	421	(+1)
行田市	15	
秩父市	29	
所沢市	324	(+1)
飯能市	23	
加須市	22	(+1)
本庄市	46	(+3)
東松山市	18	(+1)
春日部市	194	(+1)
狭山市	53	
羽生市	14	
鴻巣市	28	
深谷市	22	(+1)
上尾市	74	
草加市	179	(+2)
越谷市	237	(+5)
蕨市	59	
戸田市	97	
入間市	77	
朝霞市	62	
志木市	42	
和光市	67	(+1)
新座市	86	(+2)
桶川市	20	
久喜市	34	(+1)
北本市	10	
八潮市	45	(+1)
富士見市	50	
三郷市	76	(+3)
蓮田市	25	
坂戸市	36	
幸手市	17	
鶴ケ島市	27	
日高市	11	
吉川市	21	
ふじみ野市	61	
白岡市	43	
伊奈町	11	
三芳町	12	
毛呂山町	24	
越生町	3	
滑川町	5	
嵐山町	3	
小川町	10	
川島町	5	
吉見町	2	
鳩山町	1	
ときがわ町	4	
横瀬町	0	
皆野町	3	
長瀞町	1	
小鹿野町	0	
東秩父村	2	
美里町	3	(+1)
神川町	5	(+1)
上里町	20	(+1)
寄居町	2	
宮代町	7	
杉戸町	13	
松伏町	19	(+3)
その他	351	(+4)
チャーター機	4	
計	4069	(+42)
入院中	302	(−1)
重症	11	
宿泊療養	100	(−4)
自宅療養	87	(−8)
入院調整中	42	(+2)
退院・療養終了	3434	(+53)
死亡	90	

朝日福祉寄金

03・5540・7446

3万円　蕨市・高橋光代▽1万円　熊谷市・大木まち子、所沢市・猪俣俊晴▽5千円　さいたま市・土屋栄子▽3千円　入間市・長沢健次

◇ご寄付は郵便振替（00130・1・9166　朝日新聞厚生文化事業団）で受け付けています。通信欄に寄付と明記してください。（敬称略）

交通取り締まり

5日　◆昼（交差点・駐車・シートベルトなど）飯能、上尾、大宮西、小鹿野、吉川◆夜（飲酒・速度・駐車など）越谷、杉戸、大宮東、熊谷、狭山

学びスクエア　NIE　考えるいま・未来

「批判」の価値・意義考えて

「NIE」をご存じですか。「Newspaper in Education」の頭文字の略称で、「エヌ・アイ・イー」と読みます。「教育に新聞ひいては新聞社を役立てる」活動をいいます。本社NIE事務局には全国の小中高校から出前授業の依頼が寄せられます。昨年度は東京本社管内だけで約50件の授業がありました。単発が大半ですが、複数回の授業を受けもつ学校もあります。都立成瀬高校（町田市）の場合を紹介します。

今年度、1年生の「総合的な探究の時間」で企業や自治体などと連携。生徒みずから実社会の課題を設定し、解決法も探ろうというもの。7グループあるうち「新聞作成に関するプロジェクト」でNIE事務局が協力しています。

年22回の授業を通じて新聞づくりに不可欠な「批判」の価値や意義を考えてもらうことが狙いです。8月には事務局スタッフが講師で登場、記者経験を踏まえながら「批判とは望ましい社会のため、現状では足りない点や不合理な点を指摘する原動力、エンジンにほかなりません」と40人の生徒に訴えました。

受講した元沢彩羽さんは「ものごとを評価したうえで欠陥やまちがいを指摘するのが批判で、ただ単に人を傷つける誹謗中傷とは違うことがはっきりとわかりました」。学校側のプロジェクト担当、山川智史教諭は「『理想を実現するために批判がある』という話は『批判的精神』を考え直す良い機会になりました」と振り返りました。

「批判」精神も生かし、生徒たちは今秋以降「成瀬地区（町田地区）の課題を探る―魅力をさらに高めるために」をテーマに取材を本格化させます。

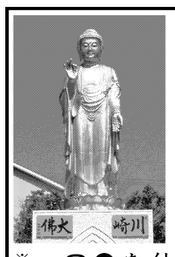
◇出前授業のご相談は朝日新聞社NIE事務局（03・5540・7870）まで。

古本出張買取

まるさんかくしかく堂では古本の買取をしています。読み終わった本、処分する前にご相談ください。店頭買取り・出張買取お客様のご都合に合わせて対応します。

お問い合わせ
TEL.0268-71-5456
営業日　月曜～金曜日　10:00～18:00
〒386-0404 長野県上田市上丸子280
まるさんかくしかく堂
提携　長野市 善光洞 山崎書店 TEL 026-235-1455

川崎大佛 墓じまい合祀



永代使用料お一人 5万円

身寄りがいない、子供は娘だけ、という方々の為のお墓です。永代に亘って、毎日、僧侶が読経をいたします。宗派は問いません。生前予約も可能です。寄付のお願いはありません。安価なお墓もございます。

●お問合せ　眞宗寺 川崎霊園
☎044・965・0965
川崎市麻生区王禅寺1241

※詳しくは「川崎霊園」で検索ください。

ついつい寄りたくなる、
おうちがあります。

家づくりは、じっくり時間をかけて考えるものだから。
いつでもふらっと来られて、ちょこっと見て帰る。
そのくらい気軽に楽しんでもらえたらと思うのです。
この家で、どんな暮らしをしようかな。
そんな風に、夢を膨らます休日も、悪くないと思いませんか？
居心地にはちょっと自信あるんだなぁ。ここは、「体感すまいパーク」です。

街に、人に。あたらしい居心地をつくろう。

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ
分譲住宅 | 注文住宅 | 仲介 | リフォーム | 賃貸

家づくりは
ポラスの
住宅展示場へ

ポラス株式会社　埼玉県越谷市南越谷1-21-2　TEL048-989-9119（宅建業　国土交通大臣(12)第2401号(株)中央住宅）